

第2回西脇市総合教育会議 議事録

平成28年11月24日

西脇市教育委員会

西脇市総合教育会議
議事録

1 開催日時

平成28年11月24日（木）午前10時00分～午前12時00分

2 開催場所

西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室1

3 出席者

(1) 市長及び教育委員会

市長	片山象三	教育長	笹倉邦好
教育委員	藤原久和	教育委員	内橋和彦
教育委員	岩本理香	教育委員	依藤三枝子

(2) 事務局

都市経営部長	筒井研策
教育部長	森脇達也
教育総務課長	清瀬泰弘
学校給食センター所長	大隅誠一
学校教育課長	竹内誠
学校教育課主幹兼教育研究室長	松本亨
生涯学習課長	山本昇司
スポーツ振興室長	森脇雄二
青少年センター所長	永井寿幸
図書館長	楠本昌信

4 傍聴者

なし

5 会議の概要

(1) 市長あいさつ

(2) 協議・調整事項

ア 平成29年度教育委員会主要施策の概要について

イ 奨学金について

(3) その他

西脇市総合教育会議 議事録（平成28年11月24日）

○事務局

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、平成28年度第2回西脇市総合教育会議を開会いたします。私は、本日、事務局を務めさせていただきます教育部長の森脇でございます。よろしく願いいたします。

それでは、開会に当たりまして片山市長から御挨拶をいただきます。市長、よろしく願いいたします。

◎片山市長

おはようございます。総合教育会議の開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。平素より、教育委員の皆様方には、お忙しい中、本市教育行政の推進に格別の御支援、御尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。

7月に開催いたしました今年度の第1回総合教育会議では、教育委員の皆様方から様々な御意見を頂戴し、また、議論を通じ、教育行政における課題、これまでの取組などについて、共通認識を深めることができましたと感じております。

本日の総合教育会議では、「来年度の教育委員会の主要な施策」と「奨学金」について、協議、調整を進めていきたいと考えております。

協議の結果、来年度以降に予算措置が必要な取組があれば、この総合教育会議制度の主旨を踏まえ、財政上の制約等もございしますが、可能な限り尊重していきたいと考えております。

本日は、前回同様、忌憚のない御意見を賜り、活発な議論ができればと考えておりますのでよろしく願いいたします。はなはだ簡単ですが、開会に当たってのあいさつとさせていただきます。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、会議の議長につきましては、「西脇市総合教育会議運営要綱」に基づきまして、片山市長にお願いしたいと思います。市長、よろしく願いいたします。

◎片山市長

それでは、まず、会議録署名委員につきまして、私から指名をさせていただきます。岩本委員、内橋委員、両氏にお願いします。会議録の署名をもって「運営要綱」第5項第2号の会議録の承認とみなしますのでよろしく願いいたします。

◎片山市長

引き続き、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。初めに、次第2の協議・調整事項(1)、「平成29年度教育委員会主要施策の概要について」を事務局から説明させていただきます。

各所属長から説明をお願いいたします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎片山市長

説明が終わりました。何か御意見・御質問はございませんか。

○委員

今年、芳田小学校で算数の研究会をされていて、かなり成果があがっているということで研究発表されていましたが、その具体例を教えてください。

○事務局

I C Tの関係でタブレット型パソコンを25台入れております。通常であれば算数の図形を黒板上で示すため平面になってしまいますが、電子黒板を使うことで立体的に指導することができ、大変助かったという現場の声を聞いています。

○委員

タブレット端末の導入でかなり成果があがっているということですね。

○事務局

はい。特に課題となっている「数量・図形」において、立体的に映せるものは効果があると子どもたちや先生からも聞いています。

○委員

今年から始まった市内統一学力テストで弱点が分かったと思いますが、学校側としては個々に指導はされていますか。

○事務局

課題である「書くこと」ですが、授業の中で以前より書く時間を確保していただいています。授業以外にも、自分の成長の足跡や、授業ごとに感想を書くということを丁寧に指導していただいております。それに対し先生方がコメントを書くということで、書く意欲というのを増していただいていると思います。

「数量・図形」が数学算数におきまして全国比較しましても10ポイント以上の差が出ています。小学校からの積上げになりますので、小学校で、紙を使ったり I C Tを使ったりし、特に丁寧に指導していただいています。また、問題データベースを使って個別の支援をしていただいておりますので、意識を持って取り組んでいただいています。

○委員

にしわき学力向上事業について、平成31年度から全国学力・学習状況調査に英語が加えられることから、GTECを小学校6年生対象に試験導入し、調査研究を行うというのが新中学1年生を対象にされるのですが、これは中学校に入ってから試験を受けるということですか。6年生までの英語力がどれだけあるかというのをみられるということでしょうか。

○事務局

小学校では外国語活動ということで英語の授業がありますので、今までに培った力をみるのと、今の小学6年生が中学3年生になった時に、読むこと、リスニング、ライティング、スピーキングというGTECのテストがあります。その傾向に慣れてもらい、子どもたちに負担が掛からないようにするのと、先生方にもどんな観点に視点をおいて授業をするべきかということ意識していただくため、つまり傾向と対策のために行います。

○委員

GTECの関係で、市内の中学生に英語力を身に付けさせるために、英語検定の初回分を負担するとあります。負担することに異議はありませんが、単に試験を受けさせるだけではなく、それまでのプロセスをしっかりとしてから、お金を出すべきだと思います。勉強しなくても強制的に受けさせられるというように捉えられてしまうと本来の形ではないと思うので、そこはきちりとしていただきたいと思います。

また、今回は西脇市独自の学力調査であったのですが、小学1年生の子どもたちに対する夢と目標を先生方が構築し、それを具体的に計画して中学3年生になった時点でどうなっているのかというのが義務教育の最たるものだと思います。子どもたちが何のために勉強するのか、誰のために勉強するのか、本人のため、地域のため、両親のためでもありますので、戦略と戦術を教育の中にも落とし込んでいく必要があると思います。9年間かけて、学校と地域と先生方が一緒になって取り組まないといけないのではないかと思います。社会における市場性でいうと顧客満足度となりますでしょうか。顧客というのを断定しにくいとは思いますが、誰のためにしているのか、そしてそこから教育にもっていくようにしてほしいと思います。

◎片山市長

H-QUの説明をお願いします。

○事務局

子どもたちへのアンケート調査で、学級内での子どもたちの人間関係や集団の状況を調べるものです。いじめ、不登校、学級崩壊の可能性があるといたことが分かるということで多くの自治体で取り入れられています。

効果ですが、子供たちが学校生活に意欲をもって取り組んでいるか、学級に満足しているか、コミュニケーション力が身に付いているかが分かるようになっていきます。教師がまず客観的な数字を通して確認し、その後子どもたちにも返すことになっていきます。最後は教師の見る目や学校全体も関わってくるので、多方面から子どもたちの様子を見るという面では大事なものです。

○事務局

英語についてですが、今年度英検の受験者は準2級から4級まで、4中学校合計で187名でした。中学校全体で生徒は約1,150名いますので16%程度となっています。事務局としてはこの数字はかなり低いと思っています。ですので、英語力の大切さというのを訴えるために、初回は無料とし、これからしっかりと英語力を身に付けていこうと呼びかけていきたいと思っています。目標としては、中学生の3割程度は英検3級をとるように促したいと思っています。

夢と目標を中学校3年生になった時に学力にどう結び付けるかということですが、単に点数をとるだけでなく将来の目標を立てるという、キャリア教育を、県の指導を受けながら行っております。市長による「ふるさとを語る」授業で夢のことを話していただいたり、小学校では仕事体験、中学校ではトライやるウィークを通じ、キャリア教育にさらに力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

○委員

英検3級の合格率は全国平均で何パーセントですか。合格率により、目標が3割というのが妥当であるか変わってくるかと思っています。

キャリア教育ということで、どうやって働き、お金を儲け、自分の将来のためにどうするのか、単にお金を出すわけではなく、大切な税金を使って試験を受けているという教育をしていかなければ、市民からの批判もあるのではないかと思います。

○事務局

注意して取り組んでまいります。

◎片山市長

税金を投じるとなると、たくさん受けてほしいけれど、合格率が高くないといけない。投資効果が高くなければならないということですね。

受ける際に合格できる力のある子どもを増やしていくことが必要だと思います。

何のために、誰のためにという考え方は、経営学者ドラッカーの著書を読まれての意見かと思います。ドラッカーの著書は、全ての住民サービスを提供する部分において必要な示唆に富んだものですので、皆様にも読んでいただきたいと思います。

○委員

放課後児童クラブのことについてですが、旧幼稚園施設での放課後児童クラブ運営を検討しているということで、そのまま部屋を使われることになると思いますが、支援が必要な子どもがだんだん増えてきますので、その子どもたちが落ち着く部屋というのも考えていただけたらありがたいと思います。いかがですか。

○事務局

幼稚園施設を利用するには、トイレ及びエアコンの整備が必要な状況です。ずっと幼稚園を使用するわけではなく、将来的には学校の教室の使用も考えていますので、その短期間のために改修費を使えるのかという問題や、教育施設であったものが福祉施設となりますので、様々なクリアしなければならない課題があり、厳しい状況となっています。当初は、低学年と高学年を分けることを考えていました。特別支援が必要な子どもがクールダウンできる部屋というのは別に設けることを想定していなかったのですが、低学年と高学年を分けた状態ができましたらその中で小さなテントを設け、クールダウンするという方法は考えられると思います。

○委員

就学前教育推進事業中の質の高い教育ということで、幼児教育センターからの巡回訪問を実施とありますが、何名程度で巡回されるのか、月何回程度を想定されているのか、教えてください。

○事務局

現在の想定では、センター長1名と指導主事が1名、合計2名を考えています。現在研修は年間10回程度していますが、今後幼児教育センターで計画を立てて各園に回っていただくこととなります。8園ありますので、1週間か2週間に1回はそれぞれの子ども園に出向いてまいりたいと考えております。

○事務局

こども福祉課からも巡回相談ということで支援の要する子どもの巡回を実施しております。幼児教育センターからの巡回とこども福祉課の巡

回について現在調整を図っているところです。

○委員

幼児教育センターの巡回訪問ですが、何年続けていく予定ですか。

○事務局

幼稚園が認定こども園に移行し閉園するまで6年を予定していますので、その間は確実に巡回する予定です。それ以降認定こども園だけになります。継続して行っていきたいと思います。

○委員

他の自治体で、認定こども園になってからだんだん足が遠のいていったということを聞きましたので、そういうことがないよう、続けていただきたいと思います。

◎片山市長

スクールソーシャルワーカーについて、具体的にどのような活動をされたのか説明してください。

○事務局

こども福祉課に動いてもらうことが多いのですが、これまではこども福祉課とうまく連携がとれていませんでした。今回、こども福祉課で長年相談員として勤務されていた方に西脇中学校に入っていただき、精力的に動いていただきました。学校が直接こども福祉課とやりとりしていたところと比べ、スピーディーに対応できており、助かっています。

◎片山市長

新聞に、図書貸出数北播最下位を西脇市は脱出するという記事が以前掲載してありましたが、最下位からは脱出できていますか。

○事務局

平成27年度は最下位ですが、今年度は脱出しているのではないかと思います。

○委員

年間貸出数トップの方が重春小学校の児童であったということで、貸出意欲を高めることにつながったと思いますが、団体で借りる時に、図書館へ行かないと読書通帳の記帳はできないのですか。団体で借りる時にも記帳できるようになれば、それが励みになって意欲が湧くのではないかと思いますので、方法を今後考えていただきたいと思います。

○事務局

すぐに対応することは難しいのですが、現在、業者の方と実現に向けて方法を検討している段階でして、将来的には実現できると思います。

◎片山市長

学校別の貸出数が図書館のホームページに出ていますが、一番多く借りているのはどの学校ですか。図書館の近くにある学校が多いのではないかと思います。

○事務局

図書館の近くにある学校が多いというわけではなく、黒田庄中学校や日野小学校にも多く借りていただいています。

◎片山市長

団体貸出の際の図書運搬に係る先生の負担や時間当たりのコストを考えると、宅急便で送れば、先生の負担面も、コスト的にもプラスとなります。そういう意識で委託するべきだと思います。それでどんどん子どもたちに本を借りていただいて、読書通帳で励みになるという仕組みを作るべきだと思います。各学校の図書室の充実ということもあるのですが、各学校に分散して100万円を投じるより、図書館に集中的に投資をするほうが効果としてあがると思います。どれだけコストを安く、先生の負担を掛けずに子供たちに本を読んでもらうか、発想を変えていかないといけないと思います。

○事務局

団体貸出数ですが、平成27年度小学校で最も多い学校は、日野小学校で1,765冊、中学校では黒田庄中学校で130冊です。中学校は他の学校は0冊でした。小学校2番目は双葉小学校で274冊、次いで楠丘小学校170冊、西脇小学校72冊、重春小学校55冊、比延小学校29冊、桜丘小学校4冊、芳田小学校0冊でした。近くの学校はそれほど多くはないという結果でした。

○教育長

この学校間の差の理由は何でしょうか。

○事務局

団体貸出の際には先生が直接来られますので、おそらく先生の思いの強さによるものではないかと思います。

○委員

学校支援ボランティアの募集をされるときに図書運搬業務を含めて募集してもよいのではないかと思います。いかがでしょうか。

○事務局

学校の環境整備や学生活動支援というのがボランティアの主な内容ですが、学校ということでリンクする部分がありますので、十分に可能であると思います。今後検討してまいりたいと思います。

◎片山市長

団体貸出数の差は、学校よりも先生による差といえますね。それだけ思いの強い先生がいらっしゃれば貸出数が多くなっていると思いますので、学校も情報共有し、励みにしてもらいたいと思います。

○委員

スポーツ施設の整備・充実というところで、総合市民センターの周辺、特に旧図書館辺りが非常に暗く、防犯上あまりよくない状況です。周りを歩きたいという方もいらっしゃいますが、暗くて歩くのが怖いとおっしゃられています。市の施設ですので、どういう照明の仕方がよいのか、周辺環境を見ながら整備していただきたいと思います。

○事務局

童子山公園、日本へそ公園、西脇公園の3つの都市公園に関し、現在リニューアル整備計画がありまして、今年度基本計画を策定することになっております。童子山公園につきましては都市住宅課が管轄しておりますので、御意見を都市住宅課にお伝えしておきます。

◎片山市長

続きまして、次第2の協議・調整事項(2)、「奨学金について」を事務局から説明させていただきます。

事務局から説明をお願いいたします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎片山市長

説明が終わりました。何か御意見・御質問はございませんか。

◎片山市長

全国で初めて兵庫県が実施した、中小企業奨学金返済支援制度についても紹介させていただきます。ポイントは、神戸市等を除く地方部の中小企業を対象に支援するという点で、公務員や教職員は対象ではなく、また、特に西脇のような大企業がない地域には、大変有効であると思います。西脇市も随伴でできないか現在検討しているところです。

◎片山市長

続きまして、次第3 「その他」 というところで、前回協議していただきました「インターネット利用に係る現状と課題について」のその後の報告を説明させていただきます。

事務局からお願いいたします。

————— [報 告…記述省略] —————

◎片山市長

報告が終わりました。何か御意見・御質問はございませんか。

○委員

インターネットに関するアンケートの件ですが、インターネットで知り合った人と実際に会ったことが一度はある、何度もあるという数字があがっています。また、保護者が気付いていないトラブルを児童生徒が抱えている可能性はありますか、重大な事件にかかわっている可能性はありますか、といったところに関し、実際に何かあったということはあるですか。

○事務局

具体的なことを全て掴めていないのもまた心配なのですけれども、インターネットを通して出会ったことがある数字が予想よりも非常に多いということで驚いています。これまで保護者に対しては安全な利用を、と言っていたのですが、青少年問題協議会としては、インターネットを使うことは容易であるが自分専用のスマートフォンを買い与える必要はありますか、ということ提言いただいて、そういうことを保護者にもできるだけ考えていただきたいと思いますし、心配な内容というのでも出てくると思いますので取り組んでいきたいと思います。

○委員

青少年問題協議会からいろいろと提言を出していただいています、保護者をお願いすることも多いと思います。先日、書店で「ママのスマホになりたい」という本を見つけまして、子どもの絵本コーナーに置いてあったのですが、大人に向けてのメッセージであると思って読みました。もっと市全体として、お母さん方にもこういったことを広めていかなければいけないと思います。

◎片山市長

子どもの教育より親の教育ということですね。「あなたは子どもをみていますか、それともスマホをみていますか」というような分かりやすいキャッチフレーズでお母さん、お父さんにも伝えたいですね。

○委員

学力向上といいますが、自分の子どもに関心をもって、何が好きで、何に興味をもっていて、というのを見てあげないと、伸ばしてあげられるものも伸ばしてあげられないのではないかと思います。学力向上という勉強しなさいという感じになるかとは思いますが、好きなこと、得意なことをきっかけに、導いてあげればよいのではと親としても思います。学校の先生、地域の方、誰かが気づいて見守ってあげることができれば少しずつ変わると思います。

○教育長

青少年問題協議会において、家庭向けだけではなく市民として気付い

てほしいことをテーマにしてもいいかもしれませんね。

◎片山市長

市民会館の整備に関しまして、席数が 500席では少ないという市民からの意見をいただいております。現在、市民会館大ホールを 600席以上使用しているのが年間約 7回という状況です。多可町のベルディホールでは、町民が主役になってチケットを売り、年間20回満席になっているということを聞きましたが、そういう市民活動の盛り上がりにより 600席を埋めて使用するという話にならないだろうかと思えます。特に 600席以上の使用は小中学校で使用される場合が多いですので、また教育委員として御意見をいただきたいと思えます。

◎片山市長

ほかに御意見がないようですので、事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局

本日、協議していただきました内容に関連いたします来年度の主要施策で、予算が必要な施策の見積額等につきましては、今後の教育委員会定例会において報告させていただく予定としております。

今年度の総合教育会議につきましては、緊急の場合を除いては、本日をもって終了の予定としております。

また、来年度の総合教育会議につきましては、今年度と同様に 2回程度の開催を予定しておりますが、開催時期等、詳細が決まり次第、御案内をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。以上です。

◎片山市長

それでは、これをもちまして、平成28年度第 2回総合教育会議を閉会します。ありがとうございました。

————— 閉 会 —————